

# 搾乳作業の **質** を上げる工夫

来る日も来る日も行う搾乳作業。この冊子のなかでも触れましたが、一つ一つの作業には意味があります。**プロフェッショナル**である酪農家の皆さんはすでに分かっていることと思います。

分かっているも、毎日の作業だけについていってしまいがちになってしまうのが人の心理。例えば、作業しづらい環境、複雑な搾乳作業、牛が汚くてうるさい、外仕事で忙しい時期に旦那が帰って来ない。乳房炎牛がどんどん増えていく。治療してようやく出荷できるようになったのに乳房炎が再発・・・**あせる気持ち**。これらは、搾乳作業のモチベーションを下げる大きな要因です。

人が少しでも**気持ちよく**搾乳ができ、一つ一つの作業を意味のあるものにするための生産者の工夫を集めてみました。皆さんの毎日の搾乳作業のなかで組み入れられるものがあると幸いです。



ストリップカップ

ティートディッパー



通路のあちこちに置いていたストリップカップ

## **ムダ**のない動きを行うために 搾乳ベルト（搾乳ポシェット）を活用

- ・ストリップカップとティートディッパーを備えたホルダー付きベルトを活用した事例
- ・さまざまな場所に置いていたストリップカップやティートディッパーを取りに行く手間が省けた。
- ・牛の間に入ったら前搾り～乳頭清拭～ユニット装着まで出てこない。
- ・搾乳作業で労働負荷の大きいスクワット（立ったりしゃがんだり）の回数が減った。
- ・楽になった分、気持ちに余裕ができて乳頭を拭く作業を入念に行った。
- ・体細胞数が激減した。

### 【管外事例】

- ・繋ぎ飼い80頭
  - ・体細胞数26万→18万
  - ・リニアスコア2以下\*割合 41%→64%
- ※リニアスコア2以下：本当に乳房炎ではない牛の割合 目標は70%以上

## ティートディッパーを持ち運ぶための 自作ホルダー

腰に巻くベルトに引っかける工夫



ある薬品の容器がぴったりサイズ

ティートディッパーをそのまま作業着に引っかけて持ち運ぶと、ディッピング剤で作業着が汚れてしまうので、ホルダーを作った



ペットボトルを加工した事例

# 搾乳作業の質を上げる工夫

## 明るい搾乳環境



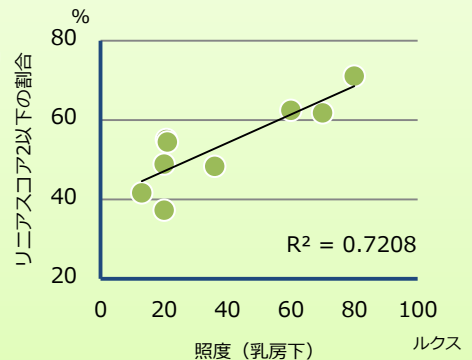
乳房炎が極めて少ない農場は、搾乳環境（繋ぎ飼い牛舎では牛舎内環境）がとても明るいという共通点があります。  
 搾乳環境が暗いと、搾乳作業中に乳頭の汚れが見えづらいため、ついつい「きれいだろう」という心理が働いてしまいます。  
 その心理を解消させてくれるのが“明るさ”すなわち照明です。

牛舎を明るくするメリットに次のことが挙げられます

- ・乳頭の汚れを目視で確認できるため意識的に拭くようになる
- ・作業者が気持ちよく搾乳できる

### 明るくするために

- ・照明は低い位置に設置
- ・できるだけ多く設置
- ・石灰塗布も効果的



リニアスコア2以下割合：本当に乳房炎ではない牛の割合

根網農業改良普及センター2013

- ・夜の自動販売機照明前：300ルクス
- ・夜の月明かり：0.2ルクス
- ・新聞が読める明るさ：5ルクス

この農場では乳牛4頭に対して1基のLED蛍光灯を設置しています

根室農改 新・キャラクター ミツコ



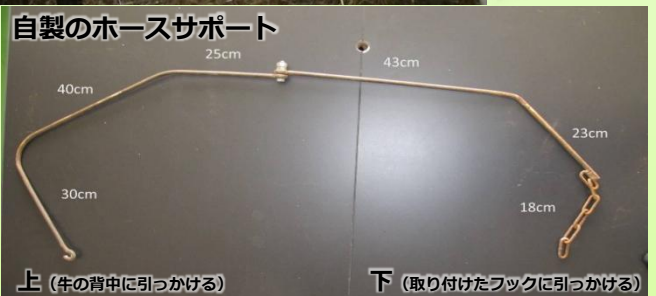
## ユニットの位置を調整するための工夫 (牛の動きに追従してユニットの位置を保持)



お金をかけずに今日からできる！  
 ひもを使ってユニットの位置調整



チェーンに引っかけるフックを取り付ける



# 搾乳作業の **質** を上げる工夫

## 搾乳いすで搾乳らくらく！

- ・搾乳いすを利用して労働負荷を軽減している事例
- ・10年以上利用しているが、腰の負担が全然違う！
- ・これからもずっと愛用する予定！



ベルトを腰に巻いて留めています

## ディッパーを3種類に分けて乳房炎予防！

- ・ディッパーを、「乳房炎用」「SA牛専用」「通常用」の3種類に分けて、乳房炎予防に努めている事例
- ・テープに「乳房炎用」「SA用」と記載して間違いが起こるのを防いでいます。

